

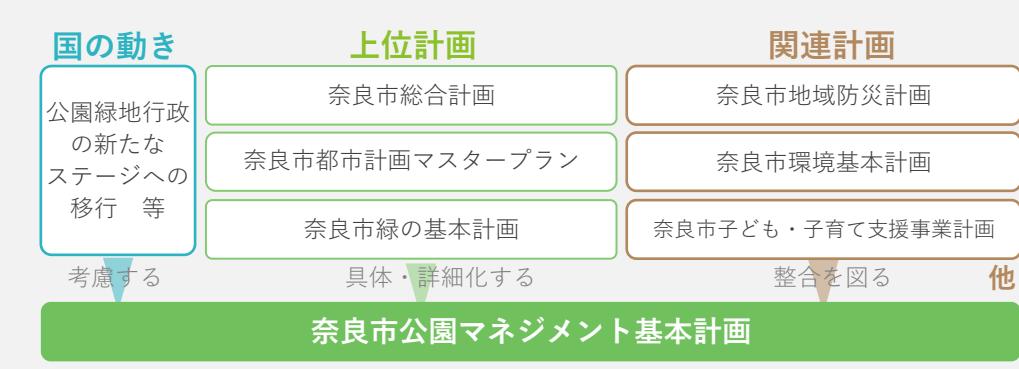
01 はじめに

1-1 計画の目的

- ・都市公園等は都市環境の改善、自然環境の保全、都市防災等の重要な役割を担う
- ・市民ニーズの多様化への対応や人口減を背景とした効果的・効率的な管理運営の必要性
- ・奈良市は様々な主体と連携し、新たな公園での取り組みを進めてきた

今後の奈良市の都市公園等の整備・管理・活用における将来像や重視される視点、基本的な方向性を示すため、本計画を策定する

1-2 計画の位置付けと役割



1-3 対象とする「都市公園等」の定義

- ・本市が管理している全ての都市公園
  - ・都市公園に準じる児童遊園、ちびっこ広場、緑地等
- ※国・奈良県が管理する奈良公園（広域公園）、及び平城宮跡歴史公園（特殊（歴史）公園）、大淵池公園（総合公園）については、本計画内では具体的な取組は位置付けない

1-4 計画期間

2022年（令和4年）度から2031年（令和13年）度まで

02 都市公園等を取り巻く状況

2-1 都市公園等の役割

- 良好な都市環境の提供
- 都市の安全性の向上
- 市民の憩い・活動の場の形成
- 豊かな地域づくり、地域の活性化

2-2 新たに都市公園等に求められていること

- （公園緑地行政に求められる観点）
- スtock効果の向上
  - 民間との連携の加速
  - 都市公園の一層の使いこなし
- （都市公園法の改正：5つのポイント）
- ① Park-PFIの創設
  - ② PFI事業の設置管理許可期間の延伸
  - ③ 保育所等の占用物件への追加
  - ④ 公園の活性化に関する協議会の設置
  - ⑤ 都市公園の維持修繕基準の法令化

2-3 近年の社会動向

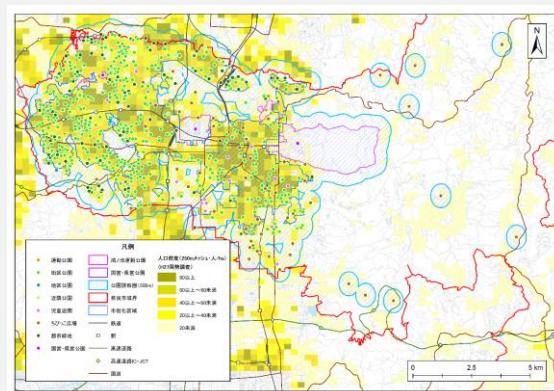
- 共生（インクルーシブ）社会の実現
- 頻発する自然災害への対応
- ニューノーマル時代への対応
- SDGs達成に向けた取組
- 子どもにやさしいまちづくり条例に基づく公園づくり
- 高齢者の健康促進のための公園づくり
- 国際文化観光都市での公園づくり
- 住みやすく「選ばれるまち」を実現するための公園づくり

2-4 本市の都市公園等を含むみどりの特徴と成り立ち

- 古都奈良の歴史の中で形成された旧市街地
- 奈良の歴史を象徴するみどり
- 奈良公園等の大規模な都市公園
- 住宅開発とともに形成された身近な都市公園
- ちびっこ広場や児童遊園の設置

2-5 本市の都市公園等の配置状況

高齢者の一般的な徒歩圏である500mを各都市公園等の誘致圏とみると、市街化区域内では都市公園等は概ね充足



▲本市都市公園等の充足率（誘致圏500m）

2-8 本市の都市公園等の現状と問題点

- |               |  |
|---------------|--|
| 本市の都市公園等の配置   | ①都市公園の分布特性<br>②その他の施設の分布特性               |
| 市民の都市公園等の利用実態 | ①公園ごとの利用者数<br>②新型コロナウイルス感染症の流行下での公園利用の変化 |
| 公園に対する市民意識    | ①市民が公園に求めるもの<br>②市民の公園に対する問題意識           |

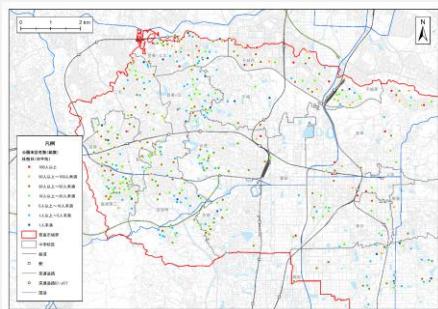
2-9 現状と問題点を踏まえて本計画で対応すべき課題

- 市民の公園への“関わりしろ”の拡充・“使いこなし”の支援
- 効率的なStockマネジメントの実現
- 利用者ニーズを把握し公園運営にフィードバックする仕組みづくり
- 画一的な仕様・ルールと利用状況とのギャップ解消
- 多様な主体と連携した公園づくり
- 公園の配置や社会情勢等を踏まえた各公園の役割・機能のアップデート

2-6 本市の都市公園等の現状把握のための各種調査結果

《位置情報ビッグデータ》

- ①主要駅や若草中学校区北の青山エリア・ならやま小中学校周辺・富雄中学校区東側の公園は利用者が多い
- ②地域内で利用者が多い公園と利用者の少ない公園が混在している
- ③利用の乏しい公園がある



▲休日1日あたりの平均利用者数

《公園利用者アンケート》

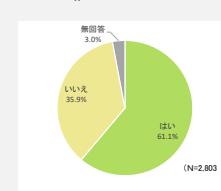
- ①利用の多いのは30～40歳代の子ども連れと高齢者
- ②現在の利用目的も公園の魅力を高めるためのニーズも屋外で身体を動かすこと
- ③高齢者はゆっくり過ごすこと、自然やみどりの豊かさを楽しむことも望んでいる
- ④新型コロナウイルス感染症の流行下における公園利用の変化は様々である

《子育て中の保護者アンケート》

- ①現在の利用目的も公園の魅力を高めるためのニーズも屋外で身体を動かすこと
- ②好きな公園は特色ある大型遊具があり、子どもが楽しく遊べる公園
- ③公園をより魅力的にする方法の検討に参加したい

《小学生アンケート》

- ①小学生は家から近い公園、広くて走り回れる公園によく行く
- ②より良い公園づくりを一緒に考えたい



▲小学校高学年の公園を良くする方法検討への参加意向

2-7 本市の都市公園の維持管理の現状

- ・R2年度の問い合わせは937件（遊具や公園施設の修繕依頼、樹木管理、ごみ処理に関する要望が多い）
- ・維持管理費は約5億円/年で推移
- ・都市公園は防災拠点としての役割も担う
- ・市民との協働による維持管理が進む

# 奈良市公園マネジメント基本計画 概要版

## 03 都市公園等のマネジメントにおける基本的な考え方

### 3-1 都市公園等のマネジメントを通じてめざす将来像



- 公園を介して出会い・交流がある暮らし
- お気に入りの公園がある暮らし
- 自分たちで居場所を編集する暮らし

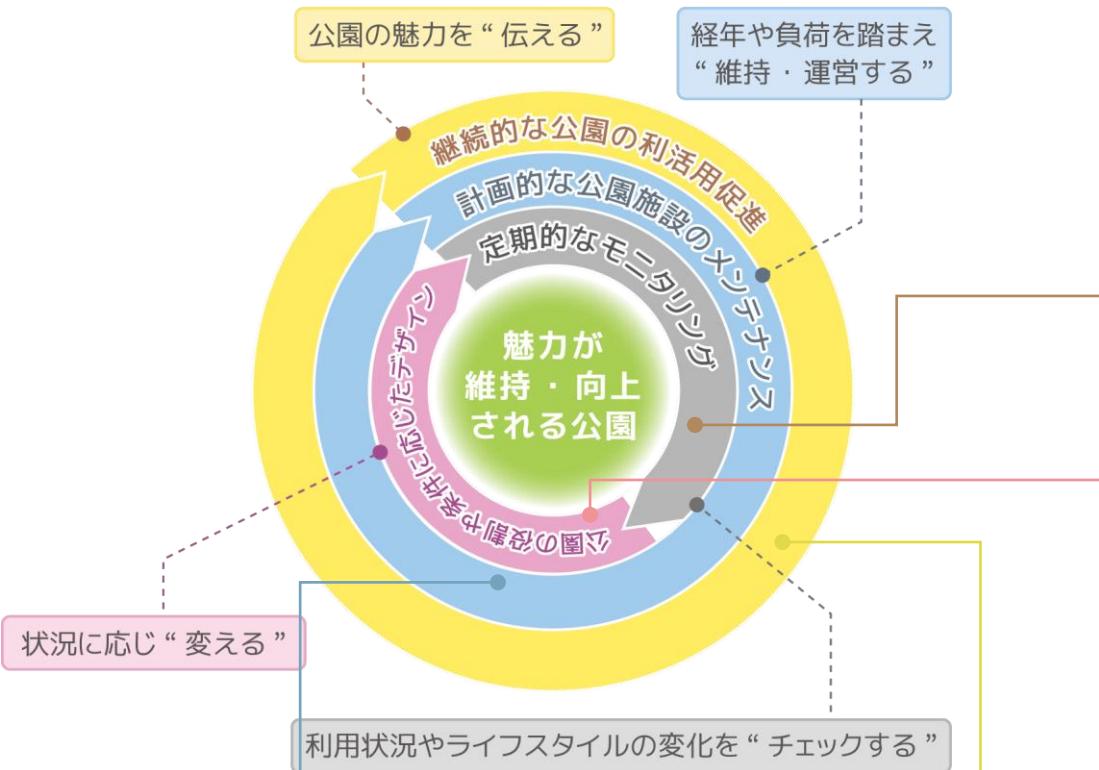
### 3-2 将来像を達成する上で重視する視点



### 3-3 現状を踏まえた都市公園等の役割分担

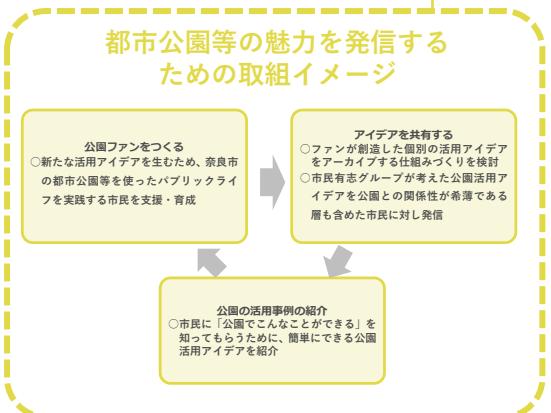
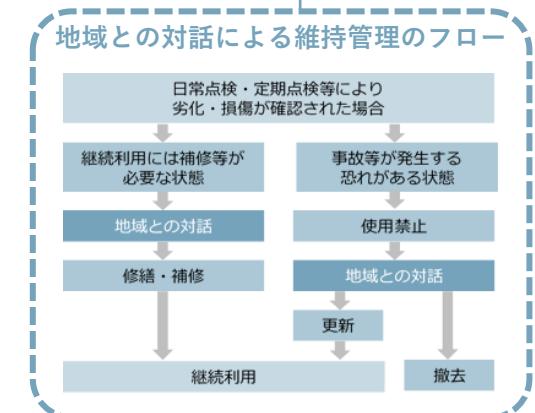
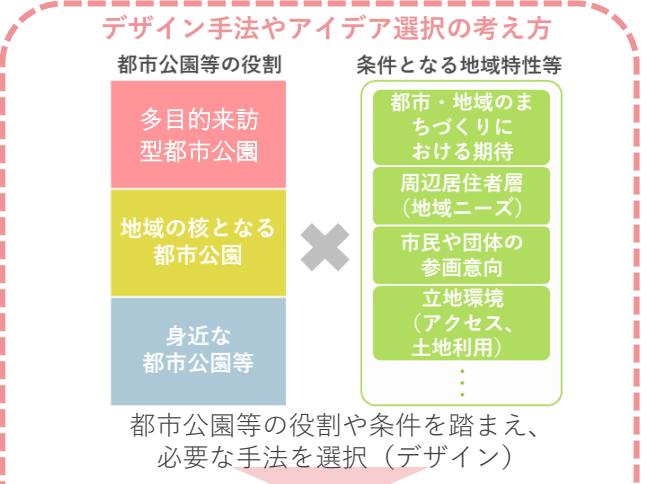
広域来訪型都市公園	地域の核となる都市公園	身近な都市公園等
<ul style="list-style-type: none"> <li>広域からの来訪を想定</li> <li>多様なニーズを満たす機能を確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域全体からの来訪を想定</li> <li>遊戯・軽運動・集会等の利用を基本にニーズに応じた機能を確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>徒歩10分圏からの来訪を想定</li> <li>複数の相互補完により、地域居住者のニーズを踏まえた機能を確保</li> </ul>

## 04 都市公園等のマネジメントにおける推進方策



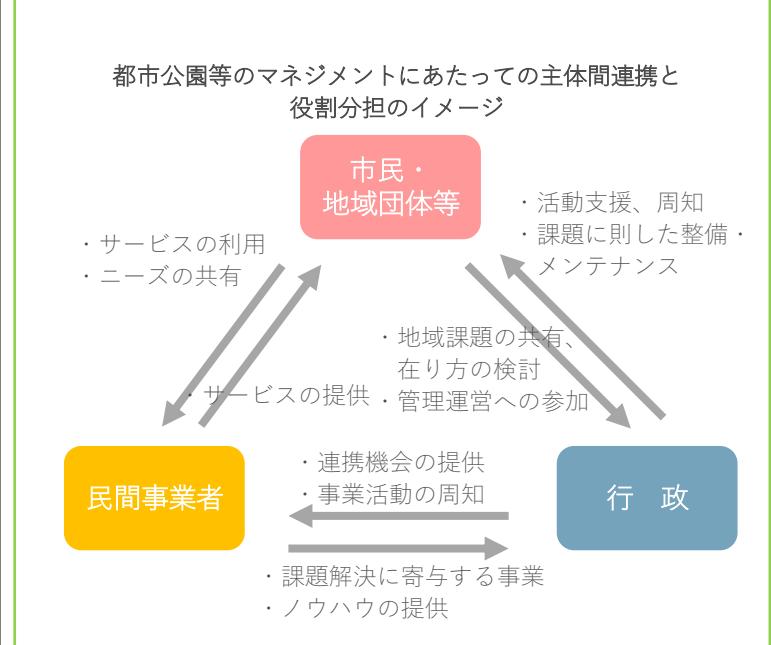
#### 定期的なモニタリング

アウトプット	アウトカム指標1	アウトカム指標2
公園を介して出会い・交流がある暮らし	公園利用者の来園目的(動機)の多様化	公園で新たな出会いがあった人、活動に参加した人の人数の増加
お気に入りの公園がある暮らし	地域にお気に入りの公園がある人の人数の増加	利用の乏しい公園の利用促進 世代間での公園利用頻度の格差是正
自分たちで居場所を編集する暮らし	グリーンサポーターなど公園管理に関わる市民や企業の増加	公園に関わるコミュニティに属する人の増加 公園の利用マナーの向上



## 05 都市公園等のマネジメントにおける推進体制

### 5-1 推進体制(各主体の役割)



### 5-2 計画に基づく施策の展開方針

- #### -トライ&エラーによる施策のアップデート-
- まず解決すべき課題が明確であり、実施のハードルが低い都市公園等や地域を対象に可能な範囲で試行的に実施
  - 試行により把握された推進上の課題を踏まえ、常に内容をアップデート
  - 多主体で実施する取組は、関係者間での取組の振り返りを対話により実施し、施策改善を図る

### 5-3 計画の進行管理と見直し方針

- 概ね5年後に計画の中間見直しを行う
- アウトプット評価とアウトカム評価の視点から検証を行う
- 定期的なモニタリングの考え方を踏まえ、時勢にあった計画へと改善していく